

東南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

数年前から発生し始めたナラ枯れの被害は深緑の中に枯れ木が点在し、強風で落枝や倒木の危険があります。この現象は長い間、手入れされなくなった里山の各所で見られ継続的な山の手入れの必要性を感じます。また、雑木林に竹が侵入して里山としての維持が難しくなっています。手入れをする担い手が不足し、みどりの減少とともに深刻な問題です。

令和5年度の河川の状況は浅川、湯殿川、兵衛川、山田川、寺田川の14地点で行った水質調査によると、COD値は1～3mg/Lを示しています。しかし、橋の下や河川に降りられる場所ではごみのポイ捨てが多くモラルの悪さを感じます。その中にはプラスチックごみが多く、川から海へと流れ、マイクロプラスチック問題となっています。人がしたことが魚だけでなく、水鳥や人間にも害を及ぼすのです。

大気汚染調査は年2回、地区内9か所を継続して行っていますが、昨年より良い傾向になっています。

■ 東南部地区の主な取組

1 駅周辺のきれいさ評価や清掃活動

9月と3月の年2回、JR片倉駅、八王子みなみ野駅、京王線の長沼駅、北野駅、片倉駅、山田駅の周辺を清掃し、ごみの種類と数を集計する「きれいさ評価」を行いました。ごみの数は減少傾向ですが、町の人口が増えている八王子みなみ野駅周辺では増加の傾向が見られます。中でも植え込みにはケイタリングのプラスチック製品やたばこの吸い殻が目立ちました。

また、11月には市、JT(日本たばこ産業(株))と連携して「喫煙マナーアップキャンペーン」を行いました。喫煙場所が少なくなった影響か、歩きたばこが目立ち、吸い殻が歩道などに増えています。

さらには公園アドプト制度を活用し、毎月第2土曜日に大塚山公園の清掃を行いました。大塚山公園は多摩丘陵の最高地点にあります。絹の道に隣接しており、地域住民のラジオ体操の場や散策コースとしても活用されています。

2 河川の水質調査と大気汚染調査

6月の全国一斉水質調査で、浅川、湯殿川、兵衛川、山田川、寺田川の14地点の調査を行いました。COD値は1～3mg/Lで、ここ数年、数値は安定しています。河川周辺ではごみのポイ捨てが多くみられました。清掃活動とともに啓発活動を行う必要があります。

大気汚染調査は年2回、6月と12月に9か所で行いました。

3 自然エネルギーや節電・省エネの出前講座

8月と12月、「クールセンター八王子」と共催でソーラーッキングを実施しました。恒例の親子講座で参加が多いことから、今回は2回実施しました。太陽光を集める装置を工作し、どれくらいのエネルギーができるか実験しました。天候と時間の影響で集熱した温度の上昇が確認できた

程度でしたが、時間をかければ調理も可能となります。災害などで電気が使用できない状況でも使用できる身近な自然エネルギーの力を子どもたちに伝えることができました。

4 川の学習・みどりの学習の環境学習の支援

5月、由井第三小4年生の学習は湯殿川の舟橋の下で行い、子どもたちは川に魚が多い事に驚いていました。また、9月には課題別(植物、野鳥、水質、水生生物)の学習も行いました。

6月、由井第二小3年生、4年生の学習は片倉城跡公園でみどりの学習を課題別に行いました。初めての試みでしたが、学校から近いところで植物や野鳥だけではなく、歴史の学習もしました。

1月、七国小5年生がみどりの学習として、宇津貫緑地で落ち葉掃きの体験をしました。「宇津貫みどりの会」と協力し、雑木林の成り立ちや山の手入れの必要性、ナラ枯れの現状、集めた落ち葉が微生物によって分解され、堆肥になることを子どもたちに伝えることができました。

5 地域の自然・自然体験講座と勉強会

自然体験講座は、5月「春の花を求めて公園巡り」片倉城跡公園～つどいの森公園～みなみ野丘公園～みなみ野駅までを歩き、様々な花の観察ができました。令和4年度に作成した花巡りのパンフレットを基に説明をしました。参加者にも好評で、地域にこのようなフィールドがあり、身近なところで自然の豊かさを実感できたとの声がありました。

6月「竹切と竹細工をしよう」は宇津貫緑地で親子体験型の初めての試みでしたが、雨のため屋内での作業となりました。竹を活かした竹箒、竹笛、水鉄砲などの作品ができて上がりました。

2月「湯殿川探鳥会」は雨のため、中止となりました。

12月には、会員の親睦も兼ねた学習会を八王子市堀之内の東京薬科大植物園で実施しました。



自然体験講座「竹切と竹細工をしよう」

■ 特色のある取組

宇津貫緑地の竹林の整備を継続して行っています。令和5年度は、6月に新竹の整備を行い、1月に古竹の伐採を中心に整備を行いました。手入れを始めた当初は竹林の中に入れないほど荒れていましたが、整備を始めて約4年が経ち、竹林として健全な状態になりつつあります。竹林は手を入れなければ、良好な林にはなりません。竹林整備の横断幕を設置して、散歩などで通る市民へ啓発活動も行っています。一般市民の参加もあり、竹林整備の広がりを強く感じます。中には樽のタガに使用する竹が欲しいとのことで本事業に参加した人もいます。

竹林を整備するだけでなく、竹林を活かすために竹の効用や竹細工を伝えていくことを、これからも継続して行います。



整備後の竹林と横断幕